

【口頭発表】

社会的孤立状態にある高齢者世帯に対する支援及びその課題に関する研究

○ 同志社大学 氏名 国儒 (009807)

キーワード3つ：社会的孤立 高齢者世帯 支援課題

1. 研究目的

日本では、長期的な景気低迷の時代を経て、経済的に困窮する高齢者世帯の抱える問題が顕在化し、社会的問題として認識されるようになった。一方で、現代社会においては、経済状況の急激な変化、家族の縮小、生活環境の変化、価値観のゆらぎ等によって、人々の社会関係やコミュニケーションの希薄化、「つながり」が脆弱化していることが指摘されている。家族や親族からの支援を期待することができず、地縁もない個人や世帯が急激に増加している。こうした状況によって、高齢者は経済的困窮だけでなく、「社会的孤立」という社会的関係・つながりの貧困など、様々な困難を抱えている。

本研究では、文献研究を通して、社会的孤立状態にある高齢者世帯に向けた支援の現状、具体的には、支援の内容、対象者、方法などを概観し、さらに支援における課題を明らかにして整理する。また、整理された課題の解決に向け、孤立高齢者にとって必要な支援ニーズを迅速に発見し、適切なサービスにつなげていくために、地域における支援ネットワークがいかに機能しているかについて示唆を与えることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究は文献研究である。社会的孤立状態にある高齢者世帯に向けた支援の現状と支援における課題を明らかにするため、日本の学術情報データベースである「Cinii」にて、「高齢者」と「社会的孤立」をキーワードとして検索し、抽出した31本の関連論文をレビューし、社会的孤立状態にある高齢者に向けた支援の現状およびその課題を明らかにした。

先行研究において、高齢者の社会的孤立を予防するための支援の取り組みについて概観し、支援内容について、支援の方法と対象別にした分類を見ると、まずは、「環境づくり・ネットワークづくり」というカテゴリーが抽出される。具体的には、【地域活動の推進】、【居場所づくり】、【見守り】といった2つに整理されている。それから、「孤立のタイプ別にみた個別支援」がもう1つのカテゴリーとして抽出された。さらにその中では、【閉じこもり・引きこもり状態にある人に対する支援】、【セルフ・ネグレクト状態にある人に対する支援】、【社会的孤立状態にある男性高齢者への支援】、【高齢介護者への支援】に分類された。

3. 倫理的配慮

本研究は人を対象とする研究ではないが、「日本社会福祉学会研究倫理規定」を遵守し、規定に示している項目に抵触しないことを確認している。なお、本発表に関連して、開示すべきCOIはない。

4. 研究結果

本研究では、社会的孤立状態にある高齢者世帯に向けた支援について、その視点と内容、対象、方法などの現状と、支援やサービスの提供における課題を、文献を通して明らかにし、整理した。その課題について簡単にまとめてみると、①地域住民等のインフォーマルなセクターに対する過大な依存による支援の難しさ；②制度改革によるサービス利用の難しさ；③利用者のニーズとサービスの供給のズレの発生、という3つに分けられている。これらの課題がそのまま残ると、社会的孤立状態に陥る高齢者は必要かつ適切な支援やサービスにうまくつながることができず、その状況の改善が難しいと考えられる。

5. 考察

研究結果で得られた社会的孤立状態にある高齢者世帯に向けた支援における諸課題に対して、以下のような改善点や提案について考察した。

まず、地域住民の活動を通して、異変に気づいただけで、支援が必要であるとしても直接に対応し、適切な支援を提供することが住民にはできないと考えられる。こうした時に、専門職からの積極的なアプローチ、すなわちアウトリーチによる支援をさらに展開することが期待されている。

次に、何らかの事情で支援を求めず、相談に来ない高齢者に対して、責任を彼ら自身に帰することをせず、相談や申請して来ることを待つのではなく、定期的に訪問することや、家族や近隣などのキーパーソンから積極的に情報を把握し、必要に応じながらアセスメントすることが大切であると考えられる。

最後に、高齢者の社会的孤立へのアプローチでは、これらのリスク考え、健康・医療サポート、日常生活支援、社会参加の促進と援助、経済的支援など、誰が何を問題視し、高齢者本人がどのような問題を抱え、何を必要としているのかを多様な側面から丁寧に評価する視座が必要である。そのうえで、高齢者が抱えるニーズをしっかりと確実に把握し、生活全般を総合的に支えなければならない。さらに、その日常生活の支援を切口として、社会的孤立問題にアプローチし、その状態を改善することにつながると考えられる。